

大村入国管理センター所長 殿

2016年12月8日

移住労働者と共に生きるネットワーク・九州

共同代表 井上幸雄（アジアに生きる会・ふくおか）
岩本光弘（外国人技能実習生権利ネットワーク・北九州）
コース・マルセル（美野島司牧センター）
中島眞一郎（コムスタカー外国人と共に生きる会）

第13回大村入国管理センターと
移住労働者と共に生きるネットワーク・九州との意見交換会
大村入国管理センターへの質問と回答

1、収容施設及び被収容者の状況について

①現時点(2016年10月末)での収容定員と収容人員について、国籍別・世代別(10歳代、20歳代、30歳代、40歳代、50歳以上)の人数及び九州以外から移送されてきた被収容者の割合を教えてください。

(昨年回答)

- ・収容定員 800名（実行収容定員は男子区200名）
- ・2015年10月末現在の収容人員 44名（全員男性）
- ・九州以外からの被移送者 86.4%
- ・国籍別内訳 全員男性 イラン8名、フィリピン6名、ブラジル・中国各5名、ナイジェリア・ベトナム各3名、タイ・ネパール・ペルー・スリランカ各2名、エジプト・ガーナ・コロンビア・パキスタン・ Bangladesh・モロッコ各1名
- ・年代別内訳 10歳代0名、20歳代7名、30歳代13名、40歳代19名、50歳代以上5名

(今年回答)

- ・収容定員 800名（実行収容定員は男子区200名）
- ・2016年10月末現在の収容人員 60名（全員男性）
- ・九州外からの被移送者 85.0%
- ・国籍別内訳 ベトナム12名、ブラジル10名、イラン6名、フィリピン5名、中国・ナイジェリア・ペルー各4名、インドネシア3名、スリランカ・パキスタン・ネパール各2名、アフガニスタン・ガーナ・ニュージーランド・ Bangladesh・モロッコ・ラオス各1名
- ・年代別内訳 10歳代0名、20歳代13名、30歳代23名、40歳代18名、50歳代以上6名

②今後実行収容定員をどこまで増やす予定ですか。

答えは差し控える。

③2015年の平均収容期間、現時点(2016年10月末)での貴センターにおける最長期収容期間及びいずれかの入管機関に収容されて現在に至る通算の最長収容期間について教えてください。

(昨年回答)

- ・平均収容期間 109.6日(2014年の平均収容期間)
- ・最長収容期間 2年3ヶ月(2015年10月末現在)

(今年回答)

- ・平均収容期間 110.1日(2015年の平均収容期間)
- ・最長収容期間 約1年8ヶ月(2016年10月末現在)

※「いずれかの入管機関に収容されて現在に至る通算の最長収容期間」への回答がなかったため、後日大村入管センターに問い合わせたところ、「そのような統計は取っていない」との回答であった。ネットワークが把握している情報では、ある被収容者が10月末現在で2つの入管機関を経由して通算で4年1ヶ月になり、日本で一番長いと言う。※

④現時点(2016年10月末)で、6ヶ月以上の長期被収容者の人数について教えてください。

(昨年回答) 6ヶ月以上 9名

(今年回答) 6ヶ月以上 20名

⑤現時点(2016年10月末)で、被収容者の中で刑務所服役後に収容されているのは何名ですか。そのうち6ヶ月以上収容されているのは何人ですか。

(昨年回答)

- ・2015年10月末現在で17名 うち6ヶ月以上4名

(今年回答)

- ・2016年10月末現在で29名 うち6ヶ月以上11名

⑥2015年10月1日から現時点(2016年10月末)までの期間中に、大阪入国管理局から移送された被収容者の人数を教えてください。

(今年回答)

2016年10月末現在で、収容者のうち大阪入管からの移送者は、24名

⑦2015年及び2016年1月～10月での期間中の事項について質問します。

ア、収容施設内における被収容者の自殺未遂及び自傷行為は何件ありましたか。

(昨年回答)

- ・2014年 自殺未遂0件、自傷行為2件

- ・ 2015年1月～10月 自殺未遂0件、自傷行為0件

(今年回答)

- ・ 2015年 自殺未遂0件、自傷行為0件
- ・ 2016年1月～10月 自殺未遂0件、自傷行為2件

イ、仮放免が許可された人数は何名ですか。仮放免許可書で指定された住所地の地方別人数も教えてください。

(昨年回答)

- ・ 2014年 23件
- ・ 2015年1月～10月 23件
2014年 関東地区9名、東海地区6名、近畿地区7名、中国地区1名
- ・ 2015年1月～10月 関東地区8名、近畿地区6名、東海地区6名、九州地区2名、中国地区1名

(今年回答)

- ・ 2015年 32件
- ・ 2016年1月～10月 39件
2015年 関東地区12名、東海地区8名、近畿地区8名、中国地区2名、九州地区2名
- ・ 2016年1月～10月 関東地区18名、東海地区14名、近畿地区5名、中国地区1名、四国地区1名

ウ、国費送還者は何人いましたか。そのうち本人の意思に基づかない送還者は何名ですか。また自費で出国した人は何名ですか。

(昨年回答)

- ・ 国費送還者 2014年 9名 うち送還忌避者は2名
2015年1月～10月 5名 うち送還忌避者は1名
- ・ 自費送還者 2014年 28名
2015年1月～10月 6名

(今年回答)

- ・ 国費送還者 2015年 10名 うち送還忌避者は2名
2016年1月～10月 18名 うち送還忌避者は1名
- ・ 自費出国者 2015年 12名
2016年1月～10月 30名

エ、苦情申し立ては何件ありましたか。その内容の主なものは何ですか。

(昨年回答)

- ・2014年 1件
 - ・2015年1月～10月 1件
- 処遇や医師の診療による不満を申し出たもの。

(今年回答)

- ・2015年 1件
 - ・2016年1月～10月 1件
- 処遇や医師の診療に対する不満だった。

ハ、被収容者の中で、宗教行事を希望した人は、何名ですか。

(昨年回答)

- ・2014年 延べ206名（ラマダン実施1名）
- ・2015年1月～10月 延べ220名（ラマダン実施を3名が希望し、給食の支給時間を変更する等の配慮をした。）

(今年回答)

- ・2015年 延べ282名 またラマダン期間に3名が断食の実施を希望し、給食支給時間を変更した。
- ・2016年1月～10月 延べ386名 また、ラマダン期間に6名が断食の実施を希望し、給食の支給時間を変更する等の配慮をした。

ニ、性的マイノリティーで特別な処遇をした人数を教えてください。該当者がいる場合、どのような立場の方が関わり、どのような処遇をしましたか。

(昨年の回答) 該当者なし

(今年の回答) 該当者なし

ヒ、被収容者の中に人身売買被害者と疑われた人は何名いましたか。その人数と国籍を教えてください。

(昨年回答) 該当事例なし

(今年回答) 該当者なし

フ、被収容者間で起こったトラブルで、警察が取り調べを行った件数は何件ありましたか。そのうち逮捕された人数、起訴された人数は何名ですか。

(昨年回答) 該当事例なし

(今年回答) 該当者なし

2、医療スタッフ及び医療ケアについて

①2016年度の医療スタッフについてお聞きします。

昨年と比べて、医師、看護師、薬剤師その他の内訳で変化があれば教えてください。

(昨年回答) 変化なし

(今年回答) 変化なし

②被収容者の中で精神を病んだ人へのケアはどのように行っていますか。

(昨年回答)

- ・必要に応じてメンタルケアの専門家によるカウンセリングや外部の精神科診療を受けさせることとなります。

(今年回答)

- ・必要に応じてメンタルケアの専門家によるカウンセリングや外部の精神科専門医の診療を受けさせることになる。

③2015年及び2016年1月～10月の期間中に、メンタルケアの専門家によるカウンセリングの延べ件数を教えてください。また通訳がついたケースは何件ですか。

(昨年回答)

- ・2014年 延べ 104 件
- ・2015年1月～10月 延べ 81 件
- ・カウンセラーは英語を解することもあり、2014年及び2015年1月～5月までは通訳つけた事例なし。2015年6月以降9件。

(今年回答)

- ・2015年 延べ 99 件
- ・2016年1月～10月 延べ 78 件
- ・カウンセラーは英語を解することもあり、2015年は11件、2016年は10月までに7件のみ通訳をつけた。

④2015年及び2016年1月～10月の期間中に、外部の医療機関での受診・検査は何件ありましたか。診療科毎に教えてください。そのうち救急搬送は何件ありましたか。

(昨年回答)

- ・2014年 72 件 外部で受診。(受診の希望の有無の統計は取っていない)
(総合内科1件、歯科2件、整形)98件、内科12件、耳鼻9科2件、泌尿器科4件、皮

皮膚科 9 件、救急外来 22 件、眼科 6 件、精神科 7 件、放射線科 1 件、形成外科 2 件)

- 2015 年 1 月～10 月 40 件
(内科 1 件、外科 4 件、耳鼻)科各 5 件、整形外科 15 件、泌尿器科 2 件、皮膚科 2 件、救急外来 12 件、精神科 1 件)

(今年回答)

- 2015 年 45 件 (内訳は内科 1、外科 4 件、耳鼻科 5 件、整形外科 15 件、泌尿器科 2 件、皮膚科 2 件、救急外来 18 件、精神科 1 件) 救急搬送は 2015 年 6 月に 1 件あり、救急車を使用した。1 回の受診で複数の科を受診する者がいるので、内訳の合計は総数以上になる。
- 2016 年 1 月～10 月 27 件 (内訳は、内科 2 件、耳鼻科 3 件、整形外科 12 件、眼科 2 件、皮膚科 2 件、救急外来 5 件、口腔外科 1 件)

⑤2015 年及び 2016 年 1 月～10 月の期間中に、施設内の医師の診察で、被収容者に通訳が
ついていたのは何件ですか。

(昨年回答)

- 2014 年 1 件
- 2015 年 1 月～10 月 16 件

(今年回答)

- 2015 年 19 件
- 2016 年 1 月～10 月 5 件

⑥現時点(2016 年 10 月末)で、被収容者の治療のために施設内に常備されている薬で、どの
ような種類の病気に対応できていますか。また常備されている薬は何種類ですか。年間
どのくらいの薬が使用されていますか。昨年と変化しているものがあつたら教えてください。

(昨年回答)

- 常備薬の種類は 11 種類、使用頻度が多いのは、鎮痛薬、漢方薬、外用薬。1 月～10 月ま
で 5,163 件あつた。

(今年回答)

- 常備薬は 11 種類、使用頻度が多いのは、鎮痛薬、漢方薬、外用薬。2015 年は 6,366 件、
2016 年 1 月～10 月は 5,947 件。昨年と比べて被収容者増加に伴い使用数が増加している。

⑦精神安定剤、睡眠導入剤、鎮痛剤について変更はありましたか。

(昨年回答)

- 常備薬としては置いていない。医師の処方により精神安定剤、睡眠導入剤はある。必要
に応じて処方される。

(今年回答)

- ・常備薬としては置いていない。医師の処方により精神安定剤、睡眠導入剤は必要に応じて処方される。

⑧2015年及び2016年1月～10月の期間中に、施設内でのレントゲン撮影は何名の被収容者に実施しましたか。現在も入所時に実施していますか。

(昨年回答)

- ・2014年 77件
- ・2015年1月～10月 78件

(今年回答)

- ・2015年 102件
- ・2016年1月～10月 128件 入所後の直近の庁内診療において胸部の検査を行う。

3、被収容者の処遇について

①大村入国管理センターの平成28年度予算の内訳と1人当たりのコストを教えてください。なお、被収容者の医療関係経費についても教えてください。

(昨年回答)

- ・平成27年度予算額 6,100万円
- ・平成28年度概算要求額 6,100万円

1人当たりのコストは年度途中であり算出できない。被収容者医療関係経費は薬品及び医療用品購入代に大別されるが、平成26年度の実績では、合わせて330万円だった。平成27年度は現時点で255万円を計上しており、前年度を上回る見込み。

(今年回答)

- ・平成28年度予算額 7,300万円

1人当たりのコストは年度途中であり算出できない。被収容者医療関係経費は薬品及び医療用品購入代に大別されるが、平成27年度の実績では、合わせて約438万円。平成28年度は10月末時点で約108万円。

②現時点(2016年10月末)で、昨年度に比べて職員体制と定数で変更があれば教えてください。

(昨年回答) (47名で) 変更なし

(今年回答) (47名で) 変更なし

③現時点(2016年10月末)で、喫煙者用棟と非喫煙者棟の被収容者数は何名ですか。この2つの収容区分以外に収容されている人はいますか。

(昨年回答)

- ・2015年10月末の収容者数は、喫煙者用区域12名、非喫煙者用区域17名。
その他の収容区域では、居室単位で運営しており、喫煙者居室2部屋で2名、非喫煙居室8部屋で13名。

(今年回答)

- ・2016年10月末の収容者状況は、喫煙者用区域19名、非喫煙者用区域34名。
その他の収容区域では、居室単位で運営しており、喫煙居室2部屋で4名、禁煙居室3部屋で3名。

④2016年度の1部屋の平均収容人数は何名ですか。

(昨年回答)

- ・昨年と同じで、1部屋の定員は10人部屋。1部屋の収容人数はおおむね4～5名で運営している。1人部屋は新設していない。

(今年回答)

- ・昨年と同じ。1部屋の定員は10人。1部屋の収容人数はおおむね4～5名で運営している。1人部屋は新設していない。

⑤運動時間、入浴、洗濯などについて、昨年から変化した点はありますか。

(昨年回答)

- ・それ以外は昨年と同様。入浴は2013年12月から13時～16時30分に加えて新たに10時～12時の2時間をプラスした。

(今年回答)

- ・入浴時間は従来、10時～12時及び13時～16時半だったが、2016年6月からは、途中時間を中断することなく10時～16時半実施している。その他は昨年と同様。

⑥食事について、昨年と変わったところはありますか。

(昨年回答)

- ・食習慣上味噌汁が飲めない被収容者に、新たにコンソメスープを供するようになった。また、これまでコッペパンと食パンの2種類のパンを2週間ごとに交互に支給していたが、パン製造業者の変更に伴い、コッペパンは平成26年12月25日から毎週火曜日に支給することとなった。その他の変更なし。

(今年回答)

- ・これまで朝食のパンは火曜がコッペパン、それ以外は食パンだったところ、7月1日からコッペパンを火曜、金曜の2回に増やし、7月17日から日曜には菓子パン(くるみパン、メロンパン、芋パン)を支給。また9月からは菓子パンにミルクパンを加え、バリエーションに富む献立作成につとめている。

⑦2015年及び2016年1月～10月の期間中、面会者は延べ何名の被収容者と面会していますか。

(昨年回答)

- ・2014年 延べ1,721名
- ・2015年1月～10月 延べ1,456名

面会者2名が同時に1名の被収容者と1件の面会を実施した場合、被収容者2名、延べ2件となる。面会者1名が被収容者2名と面会を実施した場合も同様に被収容者2名、延べ2件となる。

(今年回答)

- ・2015年 延べ1,943名
- ・2016年1月～10月 延べ1,961名

⑧未就学児の面会、あるいは未就学児を連れた母親の面会は何件ありましたか。その時、被収容者と未就学児との触れ合いのためにどのような配慮がなされましたか。

未就学児の面会は1件。職員の立会を排除する等の配慮をした。仕切りのない部屋は施設の構造上、保安上支障があるのでできない。

⑨1昨年複数言語に対応する電子辞書の取り入れを検討されていましたが、その後実施されましたか。

(昨年回答)

- ・予算の都合により導入していない。被収容者の求めがあれば、国語、英語、仏語、中国語、ベトナム語、ラオス語の辞書を貸与している。また、被収容者個人が所有している電子辞書に保安上支障がなければ、持込を認める。

(今年回答)

- ・予算の都合により官費による導入は困難。被収容者の求めがあれば、日本語、英語、仏語、中国語、ベトナム語、ラオス語の辞書を貸与している。また被収容者個人が所有している電子辞書に保安上支障がなければ、持込を認める。

⑩仮放免申請の受理から結果を本人に通知するまでの標準処理期間は何日ですか。

- ・申請者個々の案件に応じて判断し、期間の区切りは設けてない。時間を要している部分もあるが、今後も可能な限り迅速な処理をしていく。

4、その他

①過去に大村入国管理センターを難民等の受け入れ施設として使うことを検討されたことがありますか。

(昨年回答)

- ・当施設の使用目的等方針については、本省で検討、決定することであり、答える立場にない。

(今年回答)

- ・当施設の使用目的等全体の方針については、本省で検討、決定することであり、答える立場にない。

②本年4月の熊本地震の際、3階の居住区の揺れの程度と被収容者への対応を教えてください。地震等の災害時における対策はどのようにされていますか。

4月14日は震度3、4月16日は震度4を観測した。勤務員が被収容者に地震の状況を説明し、落ち着いて行動するよう話をした。災害時には、防災要領に基づき対応する。年1回以上、災害等を想定した防災訓練を行っている。

**防災訓練は、年1回熊本自身を念頭に置いて実施している、とのこと。